

# 住宅等を記録したデータファイルの長期保存・利活用技術



住宅研究部 住宅計画研究室 （研究官 博士（工学）） 小林 英之

（キーワード） 長期保存、デジタルデータ、メタファイル・コンパイラ

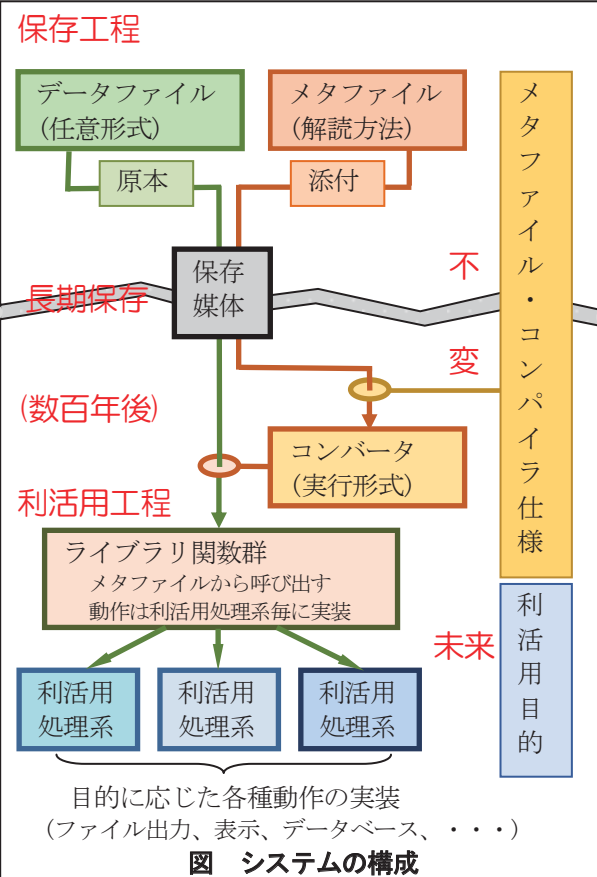
## 1. コールドデータ

住宅等を記録した三次元データの維持管理・増改築・売買賃貸借等への活用には、住宅の寿命を超えてデータを長期保存する技術が前提となる。近過去においては記録媒体の短い商品寿命と、標準記録形式の陳腐化の問題が長期保存・利活用を妨げてきた。

国総研では、各種の記録形式で保存されたレガシーデータの解読手順（文法・辞書）を記述する言語を定め、これに基づいて作成されたメタファイルをデータファイルに添付して長期保存する手法を開発した。保存工程において、任意形式によるデータファイルは原本のまま単にメタファイルを添付して寿命の長い記録媒体にコールドデータとして保存する。

## 2. 利活用処理系

利活用処理系の中核は、メタファイルからコンパイラ実行形式を生成するシンプルで別途永久保存されるコンパイラである。実行形式が呼び出すライブラリ関数の実装内容により様々な利活用処理方法の実現を可能とした。保存データと利活用処理系の一例として、災害滅失した集落の記録をGPS座標と姿勢センサを用いて元の場所に再現表示するARアプリを試作し現地体験教室に投入した例を写真に示す。



## 3. 将来の様々な利活用技術と用途のシナリオ

三次元データの応用は設計・計画やシミュレーションにとどまらず、立体模型の加工やビルの外壁への投影等、様々な技術が開発されつつあり、レガシーデータの再活用シナリオも広がると予想される。

当面、増大する中古住宅・空き家の記録データを作成して保安保全に活用し、除却後も地域や家族のメモリとして長期保存する応用分野を研究中である。

☞ 詳細情報はこちら

1) 国総研報告 (出版手続中)

<http://sim.nilim.go.jp/MCS/phi>